

平成25年（2013）栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果概要

平成26年5月27日
観光交流課

1 調査の概要

- (1) 調査の目的 県内の観光客入込数・宿泊数を推計し、観光客の動向を把握するとともに、本県観光施策の基礎資料とする。
- (2) 調査対象期間 平成25年(2013)1月1日から12月31日までの1年間（暦年）
- (3) 調査の方法 市町村からの報告に基づき、県が分類集計した。

2 調査結果の概要

観光客入込数・宿泊数、外国人宿泊数の推移〔単位：千人、％〕

※参考

区 分	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H25-24 増減	H25/24 比 (前年比)	H25-22 増減	H25/22 比
入込数	83,417	85,222	74,301	82,343	85,425	3,082	103.7	203	100.2
宿泊数	7,848	7,990	6,468	7,600	7,807	207	102.7	▲ 183	97.7
外国人 宿泊数	102	119	55	118	127	9	107.7	—	—

※外国人宿泊数の調査対象はH22までは8市町、H23からは全市町。

◆ 観光客入込数

平成25年（2013）の観光客入込数は、8,542.5万人で、前年と比較して、308.2万人の増（対前年比103.7％）となった。県全体としては東日本大震災前の平成22年を超える入込数となったが、未だ震災前の水準まで回復していない地域も存在する。

市町別にみると、宇都宮市の1,375.1万人（県全体に対する構成比16.1％）が最も多く、次いで日光市の1,005.6万人、那須塩原市の979.0万人、佐野市の857.6万人、那須町の480.3万人の順となった。

前年と比較すると、宇都宮市で60.7万人の増、日光市で55.8万人の増など20市町で増加し、また、12市町において震災前の平成22年を上回った。

◆ 観光客宿泊数

平成25年の観光客宿泊数は、22市町で780.7万人で、前年と比較して、20.7万人の増（対前年比102.7％）と2年連続で増加し、県全体としては震災前の水準に戻りつつあるが、回復状況に地域差がある。

市町別にみると、日光市の326.4万人（県全体に対する構成比41.8％）が最も多く、次いで那須町の165.8万人、宇都宮市の145.4万人、那須塩原市の96.2万人の順となった。

前年と比較すると、那須町で9.8万人の増、宇都宮市で9.0万人の増、那須塩原市で4.4万人の増など12市町で増加した。一方、日光市で3.6万人の減など、11市町で減少した。

◆ 外国人宿泊数

平成25年の外国人宿泊数は、17市町で12.7万人で、前年と比較して、0.9万人の増（対前年比107.7％）となった。

市町別にみると、宇都宮市の6.6万人が最も多く、次いで日光市の4.1万人となっており、両市で県全体の84.3％を占めている。

前年と比較すると、宇都宮市で1.3万人の増となるなど、11市町で前年を上回った。

なお、国・地域別内訳については、国籍不明が多く参考にとどまるが、台湾、中国（大陸）、米国、韓国、タイの順に多く、また、前年と比較すると、香港、マレーシア、シンガポールの伸びが大きかった。